

端を流れている。スラブは全体が草付の占める部分の方が多く、灌木も多く生えている。そして、上部ほど急傾斜になる。ルートをどうとろうかとちょっと思案したが、右手の尾根には登山道があるはずだからと、スラブをななめに横断して、右手の尾根に出た。登山道にでたのは、14:35。そこから10分程登れば山頂であった。

荒海山の山頂は2つのピークよりなる。西側のピークからの展望は素晴らしい。360度さえぎるものない、好展望台である。あいにくこの日は一部にガスがかかっていたが、七ヶ岳や会津駒、燧、日光連山などが一望できた。東側のピークには、2等三角点があるが、ここに立つにはヤブこぎが必要。山頂直下には、ロボット雨量計の小屋を改造した南稜小屋がある。小人数なら宿泊できそうだ。

帰路は、登山道を下る。登山道は尾根ぞいにつけられている。だいたい尾根の西側を通るようになっている。登山口への最後の下りは、沢筋を一気に下ってゆく。全体としてよい登山道とはいえないが、はっきりしている。ずっと樹林帯の中で展望はきかないが、所々に見通しのきく所があり、そこでは荒海山やそこから流れ下る荒海沢がよく見えた。

(記・

[タイム] 荒海沢出合(12:25)→遊行終了(14:35)→荒海山山頂(14:45, 15:00)

八溝山周辺の沢

南沢支流イの沢

1988年9月17日

今日で南沢流域の調査を完了するつもりである。いつものように山本不動尊の駐車場に車を置き、南沢左岸の荒れた林道を足早に歩く。6:20イの沢(仮称)出合。この沢は、ずっと花崗岩地帯を流れるが、全体に平凡である。1~2mクラスの滝があるだけで、どうということもないまま源頭に至る。岩の上に落ちた滑る落葉に注意しながら最後の3m滝を直登すると、そこはもう源頭。尾根のわずか下から湧き出る絶えることない清水が、この沢の源であった。所要時間15分の短い

沢登りであった。

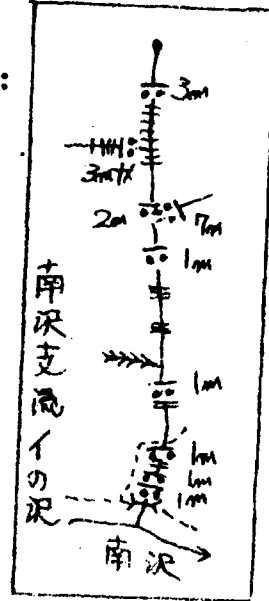
()

【タイム】 山本不動尊(6:05)→イの沢出合(6:20)→終了(6:40)

南沢支流口の沢

1988年9月17日

9:10南沢支流口の沢(仮称)の遡行開始。この沢は、他の南沢流域の支沢とちがって、伐採跡地を流れる明るい沢である。伐採跡地を流れる沢というものは、部分的にブッシュが茂ってきているのが難点である。この沢も例外ではなく、それほどひどいわけではなかったが、一部ヤブをわけながらの遡行となった。



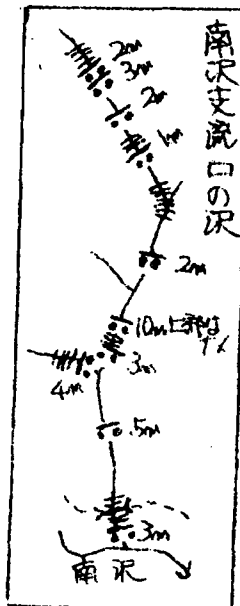
出合から少し遡ったところで、5mの滝。右岸を直登するが、ホールド豊富で、どこからでも登れる。そのあとしばらくで、今度は10mの滝である。左岸を登り、中ほどで沢身に移り、ナメ状となった上部は右岸を登る。この沢のハイライトは、この2つの滝で、あとは平凡となった。

小滝を越えながら進むと、やがて樹林帯に入る。するとすぐに沢は終わりとな

ってしまった。遡行終了9:40。

(?)

【タイム】 口の沢出合(9:10)→終了(9:40)



南沢支流ハの沢右俣、中俣、左俣

1988年9月17日

南沢本流にかかる砂防ダムのすぐ下流で合流しているのがハの沢(仮称)である。7:00遡行開始。出合からナメを少し遡ると、やがて7mの滝。ナメ状でホールドは豊富。左岸を楽に直登するが、なかなか幸先が良い。

つづく2m滝を越えると、水量が減少した。滝を越えるごとに水量が減少するのが、この沢の特徴のようで、この先も